

平成25年度 第3回 地域のしくみづくり検討・検証懇談会会議録

○ 日 時 平成26年1月28日(火) 9時00分～11時00分

○ 場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン

○ 出席者 座長 関谷 昇 大塚 清一
原田 光治 文入 加代子
平川 茂光 恩田 忠治
荒 久美子 星 典子
岩橋 秀高 榎本 孝芳
吉岡 俊一
(欠席 長江 曜子 島尻 武雄)

○ 傍聴者 7名

○ 事務局 市民部長 小沢 邦昭 市民部 審議監 伊藤 智清
市民部 参事監 戸室 文男 市民自治課長 平林 大介
市民自治課専門監 向後 文大 市民自治課 富川 玄規
市民自治課 天野 武彦 市民自治課 染谷 寛之

- (配布資料)
- 次 第
 - 地域のしくみづくり検討・検証懇談会名簿
 - 市民自治検討事業(地域の仕組みづくり)に関する議会平成25年3月の意見
 - 第1回小金地区の現状についての意見交換会

○ 会議経過及び概要

1 開 会

(向後専門監)

平成25年度第3回「地域のしくみづくり検討・検証懇談会」を始めさせていただきます。お手元に配付致しました、懇談会次第によりまして進めて参りたいと存じます。資料の確認ですが、はじめに会次第、名簿があります。それ以外にも資料が2種類あります。「市民自治検討事業(地域の仕組みづくり)に関する議会平成25年3月の意見」。もう一つは「第1回小金地区の現状についての意見交換会」の資料です。

本会議は公開で行っています。傍聴の希望者がいらっしゃいます。また本日の会議は議事録作成のため録音させてもらっています。

今回も座長を関谷先生にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(座 長)

皆さんおはようございます。今回第3回ということで前回からは少し時間が空いてしまいました「地域のしくみづくり検討・検証懇談会」ですが、本日も2時間くらいを目安に意見交換会を開きたいと思います。この地域の仕組みづくりというのは昨年春に検証委員会から出された報告書を踏まえて、より具体的な意見交換をしようということで立ち上がった懇談会ですが、前回、前々回と様々な立場から今後松戸市が目指していく地域の立場に対して率直に意見を頂きました。本日もその続きということで忌憚のない意見を頂きたいと思っています。

この地域の仕組みづくりはこれまで様々な立場からなされてきた地域の仕組みづくりの蓄積と意義を積極的に活かしていくと同時に、今後少子化や地域の疲弊と言われている中で様々な契機を加えていこう、地域の横の繋がりを積極的に作り出していこうという課題があります。

例えば、担い手の高齢化、若い人が積極的に参加できる環境づくり、街づくりや地域づくりに様々な手法を取り入れていくなど様々な可能性を開いていく、いろいろな動きも補完し合っていくことを狙い横の繋がりを作っていこうということで議論をしています。

意見交換を始める前に今日の内容の(1)のこれまでの経緯をその後の動きを含めて事務局のほうから説明してもらいます。

(伊藤審議監)

昨年3月議会でのこの事業に関する意見や討論の内容を説明させていただきます。

(平成25年3月の市議会において、本事業の平成25年度予算案が一部修正されて議決された経過と、本事業に対する市議会議員の意見を抜粋して紹介)

以上が本会議からの抜粋となります。これら議会の意見を踏まえて市としてはこの事業に真摯に対応してきました。松戸市総合計画に根ざした未来図を「自分たちのまちは自分たちでつくる元気な街」の重要施策。地域の問題は地域で解決する仕組みづくりを目指します。これにありますように市では地域の各団体が連携を取り、対話や交流を通して地域の課題と共通し、自らの地域活動を促進するように地域のしくみづくりのモデル事業を検討しているところであります。

この懇談会のメンバーに3名の地区長が入っていますので、現在この3地区でモデル事業のご相談をさせてもらっているところです。具体的には資料にありますように昨年12月17日に小金地区で大塚会長のご協力、呼びかけで約20団体の代表の方が集まりましてモデル事業実施に向けての意見交換会が行われました。20団体も集まり時間も限られていたので、1団体につき3分で団体の紹介と地域活動の状況と意見を出してもらいました。皆様積極的に参加されて、この意見交換会が地域の活動の起爆剤になって欲しいというような意見が出まして、次回は2月の中旬に意見交換会を開けるように動いています。また馬橋地区・本庁地区でも地区長を始め数団体にモデル事業の説明をさせていただき次回2月中旬に地区長を中心に意見交換会を開催したいと思います。今後も地区長と相談をしながら進めていきたいと思っています。

(座長)

議会での議論の様子を報告していただきましたが、いろいろな考え方がある中、仕組みに関する理解が地域に浸透していなかったり、その機会すら多く持たれていませんが仕組みをつくるには時期尚早という意見が多く聞かれました。これは松戸市に限らず他の自治体でもこのような計画を始める際には出る意見です。だからこそ進めていくのだという反対の意見もあります。今後一定の方向性を持って進めていくのか考えて意見を頂戴したいと思っています。

大塚氏の地区でモデル事業に向けての意見交換会が行われたということなので、その時の様子やどのような意見が出たかなどご紹介いただけますか。

(大塚氏)

平成25年12月17日に開催された小金の意見交換会ですが、街づくりに関しては12年前から始めていました。始めた当時は町会・自治会・商店街はあまり活動していませんでした。そこで任意団体の「街を良くする会」を作りました。東漸寺と本土寺を中心とした観光資源を活かしながら小学校・中学校・福祉団体と一緒に街づくりを始めました。その結果10年経ってようやく小金宿の県道にある電柱の地中化を進めることができました。地権者180人のお宅を一軒一軒回り、ようやく分筆できました。平成26年度に向け、本予算化を進めていきます。こういうものが一つの形としてできました。

そうした中で、市政の下で地域のことは地域でということで大きくまとめてもらえると松戸市が大きく発展していくと思います。坂川と富士川を挟んで流山市と柏市があります。隣接2市と市民ぐるみで地域と県も含めたプロジェクトを立ち上げ、川の隣に遊歩道やサイクリングコースを作ろうとしています。県管理の河川ですが、松戸市の河川清流課にもプロジェクトに参加するように要請しています。そういう関係の団体に声をかけまして20団体に小金の意見交換会に参加していただきました。

非常に皆さん関心が高く、地区内にある7校の小中学校の校長、教頭、保護者会や社会福祉協議会の代表者など小金地区で共通の課題があります。それは地域を作ると言っても高齢化社会なので元気なお年寄りを作るということです。それと同時に子供達をどのように街の行事に参加させていくかということです。現在社会福祉協議会と一緒に園芸作業を行っています。小学校3年生を中心に殿平賀小学校と小金小学校の全校生徒が活動しています。他の小学校も参加したいと輪が広がっています。

また、老人ホームに町会、社会福祉協議会、子供達が訪ねて、育てた花を届ける活動をしています。その他にも「枝豆の会」を作り「湯あがり娘」という枝豆を栽培しています。年に2回会を開催し、そこに吹奏楽部の子供達も参加しています。今も小金駅前でも小金宿祭りが行われていますが、24町会が参加しています。その時に中学生もゴミ拾いや会場設営などに参加してくれるので学校と地域の繋がりが強くなっています。10年間開催している「黄金イルミネーション」では、小中学生の作ったオブジェを展示しました。小金は古い町並みが多く残されているので、行灯も同時に飾っていますが行灯は自腹で取り組んでいます。他の町会・自治会からの問い合わせもあり、職員を派遣して指導等を行っています。

そういうことで街づくりはいろいろな角度から取り組んでいかなければなりません。12月

17日に集まった時も学校や福祉関係、町会、商店街の関係者が集まりました。それぞれの立場で考え方も変わるので、分野ごとに分けるのではなく、ブロック毎に分けて議論したほうが発展すると思い、これから進めていきたいと思っています。今までの10年間の活動などをベースに仕組みづくりに取り組んでいきたいと思っています。

(座長)

形として上から決まった形を当てはめるのではなく、既存の活動をどのように活かしていくのか、いろんな世代、様々な立場の人達が交わることで地域のいろいろな可能性を模索していくことが重要だと思います。歩道や河川、お年寄りと子供たちとの交流の話にも共通しますが、それぞれがやりたい事を持ち寄って活動する、あるいはそれぞれの活動にいろいろな人が参加するということが地域の仕組みづくりには重要なことです。大塚氏の話や今までの議論を踏まえたいえで自由に意見交換していただきたいと思っています。

(恩田氏)

馬橋地区も昨年末に説明会ということでそれぞれの団体に呼びかけをしたところではありますが、参加人数が思っていたよりも少なくなっていました。馬橋地区は地区社会福祉協議会を始め、防犯等の活動を行うときに24ある町会・自治会が人的や資金的な協力を全面的にしてくれているので非常に助かっています。地域の仕組みづくりを進めていく中で町会・自治会に初めから参加してもらうことがやりやすいと思います。来月の説明会には連合町会・農家組合などの団体に声を掛け、より多くの人や団体に参加して地域の仕組みづくりに協力してもらいたいと思っています。

(座長)

町会・自治会がひとつの核になりながら周辺の人たちを巻き込んで活動していきたいということですか。

(恩田氏)

はいそうです。

(榎本氏)

今の大塚氏の話や聞いて思ったのが、日頃からの環境づくりが大事であるということと、ただ課題を解決するのではなく、楽しく参加できるように工夫することが大事なのだということです。私は最初から課題を解決するために集まってくれとしてしまうと利害関係が生じてしまうので、最初はみんなが集まり意見を出して成功体験を重ねる小金のやり方はいいと思います。

私は20年近く地域づくりに携わっていますが、かつての市長の公約で河川を綺麗にすることから河川清流課という課がありました。その時は河川を綺麗にするために新しい団体を作るのではなく、既存の団体で近いことをやっていた団体に声をかけ協力を求めたというや

り方をしていました。地域の仕組みづくりも同じでそのために新しい団体を作るのではなく、既存の団体の人達に声をかけるというのがよいと思います。例えば、常盤平では桜祭りというものをやっていますが、祭りの実行委員にはオール常盤平というようなメンバーが集まっています。地域の仕組みづくりもこの方々のネットワークを通じて呼びかけることができればよいと思います。

さきほど大塚氏も仰っていましたが、商店街に関して言うと補助金の関係もあり非常に細かく分かれてしまっています。私としては商店街の方々が直接商店街に関係ない街づくりに関することでも、最終的に商店街のためになると思って、街づくりに参加してほしいと思っています。

松戸市の中で成功の実例を作っていてアプローチをしていきたいと思っています。さきほど座長からもあったように上から押し付けるのではなく、方向性を提示して地域差もあると思うので出来ることから始めて成功例を作り、それぞれの現場や地域の特性に当てはめつつアプローチをしていけば前に進むと思います。議員さんの意見の中に時期尚早と言う意見がありましたが、成功体験を積んで話を進めていけば誰も地域の課題を地域で解決することに反対はしないと思います。

(座長)

既にある取り組みをどのように活かしていくのかということと、課題解決型と言うてしまうと組織感が強くなってしまいます。そうすると役割分担論や負担論の話になって結局だれも実行できなくなってしまうがちです。そうではなく、すでにある取り組みにいろいろなことをプラスし、足りないものを補完していく形や、楽しく参加できる工夫を作っていくことが大事になると思います。仕組みという部分では理解はまだまだだと思いますが、地域で企画が出たり意見交換が行われることは大きな可能性が広がると思います。

(榎本氏)

大塚氏達の活動の中で大事なことは、子供達を含め様々な人を地域と関連づけて地域に対して誇りと愛着や夢と希望を持つように工夫されているということです。あまりにも課題解決とすると、そうした心を育てることが難しいと思います。私は大塚氏達のされている活動が地域に関わる人を増やしつつ愛着と誇りを持てるように工夫されているところが素晴らしいと思います。

(岩橋氏)

仕組みづくりが上から押し付けられてきたように理解されているようですが、私は違うと思います。言葉では地域の仕組みづくりや、地域の問題は地域で解決しましょうということになっていますが、本来は地域の力をどのように連携させるかという仕組みづくりだと思っています。新しい仕組みを上から入れるのではなく既にある皆さんの力を連携させるための仕組みを作るものです。今まで地域に参加していなかった人達も加わるような仕組みづくりが本来の仕組みづくりの趣旨だと思います。地域の仕組みも全て同じという訳ではなく、基本的な考え方

は同じく持ちながらも地域ごとに主たる担い手が進めていかないでみんながやるとなかなか進まないと思います。

小金地区の取り組みも長い年月をかけて行われてきました。地味な取り組みが醸成されてきたのだと思います。

議会のご意見を伺いますと現在の町会の役割が理解されていない時期に取り組むのは時期尚早だという意見がございましたが、私はそうではないと思います。並行的に試行錯誤していくことでいいのではないかと思います。地域・自治会・町会の役割も地域によって大きく異なると思います。上手くいっている地域の仕組みづくりはそのまま進めていけばいいですし、上手くいっていない地域はそこをモデルに見習っていけばいいと思います。

この仕組みづくりの理解が最初は、みんなの街の課題をみんなで解決していこうというものでしたので、理解のされ方が違うと思いました。既存の皆さんの力を連携していこうと考えるのが仕組みづくりであり、その中で今まで地域に参加していなかった若い人を参加させる方法を考えていきましょうということです。

(座 長)

これまでもそういう趣旨で話し合われてきたとは思いますが、既存の取り組みの中のどこに意義があるのか、どこに課題があるのかこの会議の前にも地区長さんたちは議論を重ねているいろいろな意見が出ているところです。さらにそれだけではなくいろんな議論を重ねる必要はあると思いますが、一方で課題を炙り出して答えを見つけることも必要だということでした。

(荒 氏)

この懇談会の前に仕組みづくりの意見交換会がありその時に松戸市の特徴についてまとめたと思います。その中で松戸市には市民活動を行っている人と潜在的になにかやってみたいという人が多いということです。ただそこで、どこでその力を活かしていいか分からずにいるということが課題としてありました。特に3. 11以降は地域に関わりたいという若い子育て世代の方が増えているのを痛感しました。その思いをすくい上げて仕組みを作りたいと思います。

さきほどの大塚氏が仰っていた意見交換会の様子を聞いて、ここなら若い人が活躍できる場になると思いました。

また、子供の立場で言わせてもらいますと、子供達の意見を聞く場を「子供フォーラム」や「こどもの国」といった場で設けております。子供も大人が本気で尋ねているとわかると本気で答えてくれます。子供の本気の意見は凄いので子供の意見を聞く機会を作ってほしいです。

子育て世代の方々が高齢者と同じ課題をかかえていると常々感じています。しかし、子育て世代の力は大きいので活かしていける話し合いの場があれば良いと思っています。

若者世代ですと、今の学生さんは意外とボランティアに参加している人が多く、前回の仕組みづくりの公募があった時に若者の代表として意見を出さないよと言ったところ、こういう場で自分達の意見を言ってもすぐに潰されてしまうので出ないと思ってしまっています。本当は若い人達がこういう場に参加して意見をバンバン出せば皆さんと同じだと実感できたのにと
思います。

別件ですが、子育て支援課では今「松戸市子ども・子育て会議」というのがあり、そこでは若い人達がたくさん参加して意見がバンバン出ています。この懇談会でも何度も出ていますが、縦割りではなくそれぞれの領域を超えて話し合うことで、同じ課題が見つかることや新しい広がりや希望や夢が見つかるプランに繋がると思います。まずは仕組みづくりの第一歩として自由に参加して意見が言える場を作ることが大事であると思います。

(座長)

地域に意見を言うことのできる場を作るということは以前より言われていました。例えば子育て世代の若い親御さんの防犯、地域の安全や子育ての環境についての素朴な意見も仲間内では気軽に話し合うことができても、立場を越えて年配の方や事業者の方との交流の場が今までにはなかったので地域の仕組みづくりをそのような若い人達にも開けた場にしようという非常に重要なことでした。

(文入氏)

今まで検討・検証委員会の意見を思い出してみると誰も大きな組織を作って意見を出してもらおうと考えている訳ではありませんでした。懇談会となった現在ではよりフランクに話し合い、自由な発想ができる環境になっています。

今までの話にもありましたが、既存の生活や団体を総括ということではなく、活かしながら組織に属していない市民ともサロンのような形で交流できる組織にしていこうということまで決まっていました。私は社会福祉協議会として参加していますが、地域の仕組みづくりといっても地区社会福祉協議会があるじゃないかとよそで言われることがあります。そうではなく、社会福祉協議会、町会・自治会・市民が心を割って話し合えるような環境を作っていい街づくりの雰囲気繋がればいいと思います。検討・検証委員会の中で市政協力委員ということでお話が出ていましたが、懇談会になったからといって一から作り直すのではなく今までの積み重ねということで引き継いでいくのがよいと思います。そして新しい人や団体を巻き込んで活動していくということを、少しこの会が誤解されているように思うので、今一度確認してほしいと思っています。

地区社会福祉協議会では15の地区社会福祉協議会が素晴らしい活動をしています。ですが、全ての地区社会福祉協議会が同じ足並みでやっているのではなく、それぞれの地域の特徴や市政協力委員、町会・自治会が加わりながら進めていますので更にこの地域の仕組みづくりに加え進めていければ、心強く思います。ただ、町会・自治会にもいろいろな課題が出てきます。この会でもこうしたほうが良いというような課題が出てくるのは自然ですが、堅い話し合いにならないようにしたいと思っています。

先ほど荒氏が若い人がこういう話し合いに参加しても自分達の意見は潰されてしまうと言っていたような先入観や、私達が若い人達がこのような話し合いに参加してくれないという諦めを持たないように情報を発信していきたいと思っています。

(座長)

既存の組織を含め新しい組織に一本化するという自治体も全国の中にはありますが、大体上手くいかずに元の住み分け論に戻ってしまいます。そうではなく既存のものを活かしながらやっていく。さきほどの文入氏の話であれば、例えば社会福祉協議会ではもっと中に入ってきてほしいけれどなかなかそうもいかない実情があるということで、こういった場があると既存の組織も開かれていくことが可能であるとお考えですか。

(文入氏)

はい、そうです。正直制度ボランティアである民生・児童委員の方と同じ目線で話すことはできませんが、それらを活かしながら情報交換を行いながら、地域の見守り体制を強化していきたいと考えています。地区社会福祉協議会も評議員制度が各地区にあります。各地区によって民生・児童委員は全員入っているという地区や小中学校の代表が全員入っている地区もあります。地域で話し合ってきた結果ですのでどちらが良いということではありません。ただ、広い視野を持って取り組んでいければいいのにと考えています。

(大塚氏)

市政協力委員連合会は町会・自治会の代表者12名の地区長で活動していますが、それを今後どうしていくかということが我々に与えられた使命だと思っています。平成25年9月に1地区を除く11地区を回って地区が抱える問題と、松戸市に要望としてなにを求めていくのかを2つの観点から整理して話し合いの場を持ちました。その結果、地区ごとに温度差があるので全地区一律で同じ事を行うことは無理です。地域には特色があるのでその特色を活かしながら街づくりをしなければいけません。こう決めたから、こうなさいではいけません。中にはなにもしない団体もありますが、直接話し合いに行かないと無理だと思います。大きく4つに分けると市政協力委員制度の問題、防犯・防災の問題、社会福祉の問題は多くの地区から挙がる共通の問題です。これらの問題をまとめていかなければなりません。

また、一つの枠組みにとらわれず地区それぞれの特性を活かしながら松戸市全体を盛り上げていかなければならないと思います。市政協力委員の本来の仕事は町会を通して市民に回覧物等の書類などを渡すということでしたが、今年の8月から規約を変更して市に対しても意見を言えるようにしました。このようなことを仕組みづくりにも活かしていきたいと思っています。今は時期尚早という地区長もいますが、ある一定のレベルまで統一しないと仕組みづくりは進まないと思います。積極的な地区もあればそうでない地区もありますので、同じようにこうなさいということはやめていただきたいです。

街づくり、仕組みづくりという意味では市川市や柏市に負けたくないです。本来は他市の名前を出すべきではないのですが、私達が暮らしやすい街や将来街を背負って立つ子供達を育てていける街にしていくことも私達の仕事だと思っています。時間はかかると思いますので頭の片隅でいつも考えていき、それについてのやり方を皆さんと一緒に考えていきたいです。

(座長)

現状において地域の温度差がある、話し合いをしていろいろ決める、市に対して要望をまとめる、ということが積極的に行われているところとそうでないところがある。だからこそ仕組みづくりを行う上でモデル地区から入っていくというのは、自治体によっては一律的に導入するということが少なくはないのですがあまり上手くいっていないのが現状で、松戸市に関してはモデルから取り組んでいこうということです。これは状況の違いや理解度の違いなど横並びではない地域のあり方も含めて今後の仕組みづくりに問われてくると思います。

(原田氏)

過去になにかやる時に地区割りがハードルになっているということを言いましたが、何回かこの会に参加するうちに考え方は変わってきました。モデル地区ということで地区割りをしなければならないという考えがあるからです。地域の組織と交流していかなければなりません、小金地区のように10年以上前から活動しているところはいいのですが、そこまでの力が無い状況で実際にはなかなか難しいと思います。本庁地区の小山連合町会は数としては多い町会の連合ですが、どれも小さな町会の集まりなのでそこまでの意識を持っている人が少ないです。

また本庁地区は駅前の商業地域と住宅地域が混在していますので、同じ地区内でも考え方が異なります。本庁地区の社会福祉協議会としていろいろ行なっているが抜けているのは子供達です。子育てサロンはやっていますが、将来地域を担ってくれる学校へ通う子供達を対象とした事業が社会福祉協議会には現在ありません。お年寄りにはふれあい会食会やサロンがあります。子供達にはもう少し地域の人達と交流してもらい、地域を背負って立つ人材に育ててもらいたいと思っています。そこで今回ハードルを越えて本庁地区の子供達が通う学校を対象に故郷意識を持ってもらうための活動を始めました。線引きを意識してたら何もできないので本庁地区の小中学校と地区外の相模台小学校、一中と二中のブラスバンドや合唱部を一同に集め、さらに聖徳大学にも特別に参加していただき音楽祭を開催しました。このような活動を一つ一つ続けていくことで小金地区のようにしたいと思っています。

(座長)

蓄積の違いというのはそれぞれあるとは思いますが、子供達が地域のことをどのように思っているのか、外に出てもまた松戸市に戻って来たいと思えるような故郷意識と言うのは非常に重要だと思います。そのような意識は子供達がどれだけ地域で経験を重ねることができたかによるとは思いますが、そういった経験は地域のいろいろな世代の方との交流や地域のイベントに参加していくことで醸成されていくものだと思います。そこに大きな課題意識があるのならばまずはそこだけでも解決しようという意識でも問題ないと思います。いろいろな案件があるので前後並行してやっていかなければならないという縛りもないのでうちの地域は力を入れたいという場合にはこの方法がいいと思います。

(吉岡氏)

さきほど社会福祉が今後の地域の課題の一つというお話しがあったと思いますが、専門が高

齢者支援や介護なのでそちらについてお話させていただきます。

最初に大塚氏が子供とお年寄りの交流が良いということでお話されていましたが、私もそれを実感しています。毎年旭町小の生徒さんが施設に来てくれてお年寄りと触れ合う機会があるのですが、帰る時にお年寄りの方が涙を流しながらまた来てねと言って、子供達もまた来るねと言って学校に戻り家に帰った後もう一度自主的に施設に来てくれます。本当に素晴らしいものだと思っています。うちの施設は毎年行っていることなのですが、施設ごとの判断に任せていて、他の施設でも行っているところはあると思います。そこで地域のしくみの中でこのような取り組みを行えたらまた違った形でいいものができるのではないかと思います。

あとボランティアに関してなのですが、延べ人数で年間1,000人くらいのボランティアの方に来ていただいています。最初にボランティアの方に来てもらった時は上手くいきませんでした。1回来ただけで来なくなってしまうことが多々あり、それならやりたいことだけやりに来てくださいとボランティアの方に伝えたところ一度だけでなく、繰り返し来てもらえるようになりました。目的を持って来ていることをやってもらうと継続するということを実感しました。

また、制度としての介護ボランティアが昨年度から始まりました。社会福祉協議会さんがコーディネーターをやってくれています。市民の方からボランティアを募りまして市内に18ヶ所ある特別養護老人ホームに派遣します。そこでボランティアの方が頑張ってくださいとポイントが貯まるようになっていて最大で年間5,000円分くらいになります。この制度も良いなと思います。現在のところ松戸市が中心に動いているのですが、いずれ地域のことは地域でというように地域が主体となっていければ良いのではないかと思います。今のところ施設に限定されているのですが、これが在宅の方のところに行くようなことができるようになれば社会福祉として充実してくるのではないかと思います。

(座 長)

市内にある各施設がこの仕組みづくりと接点を持つ可能性があるということですか。

(吉岡氏)

そうですね。現在国では、今まで自己完結していたこと、専門職としての技術や知識を地域や人に向けて発信してくださいということになっているので、今後は更にそういうことが増えていくのではないかと思います。

(座 長)

今福祉の分野で自己完結するのではなく、介護や保険、場合によっては医療など一つの専門分野の中だけでなく分野を越えて横断的に繋がり、更には地域も巻き込んでいく中では接点は模索されていると思います。またボランティアを募っていく、活かす時など大いに可能性はありうると思います。

(星 氏)

今まで皆さんの話を聞いていて共通しているのが世代を越えた立場を越えたという先入観です。どうしても組織ということになると立場があり、それぞれの考え方やカラーがある程度出来上がっている中でいらっしゃるので視野が狭くなっているのではないかと思います。若者は話を聞いてもらえないと思ってしまったり、私達子育て世代は忙しいのでこっちを見てくれないという固まったレッテルを貼っている気がします。それを取り払うために何度も何度も交流を重ね、お互いに誤解を解いてわかり合うことが最初に行わなければならないと思います。例えば小金地区のようにあるものを作るということで、一致団結していくことで最初団体意識を持つことなく始めることができたのだなと思いました。成功・成功談の積み重ねということでしたが、成功も確かに大事ですが、「うちの地域ではうまくいかなかったけれど、他の地域ではどうか」というように失敗談の共有が成功への近道に繋がるのではないかと思います。

それと目の前の出来る事から取り組んでいきその積み重ねが10回、10年と大きなものになるので、「やらなくては」の精神ではなく子供達に声を掛けてみようとかゴミを拾ってみようということから始めてみるのがよいのではないかと思います。文入氏にもお世話になり月1回朝の清掃を行っていて、一度参加させていただいたのですが、中学生も参加していてやり方によってはいくらでもやりようがあるのだなと思いました。

地域特性に温度差があるというお話でしたけれど、住んでいる人達が一番地域の特性や問題を把握していると思うので、そのような人達が一同に集まり気兼ねなく話せるこのような場があると良いのではないかと思います。いろいろな世代の方がいるので時間という一番の問題がありますが、できればそのような場があれば良いなと思います。

地域で交流する場を作る力がないということですが、そのきっかけを行政のほうから無理やりでも作ると意識が少し向いたり、最初は嫌々参加していたとしても次第に楽しくなってきたということもあるので、きっかけ作りに関して言えば上から行っても良いのではないかと思います。

(座 長)

おっしゃる通りです。なかなかきっかけが作れないことがあったり、固定観念やしがらみが邪魔して難しいと思ってしまうことがありますが、実際に会ってみたら同じことを考えていたという発見や対立が浮き彫りになるということがあると思います。しかし、そういうことを含めて共有していくことが次のステップに繋がっていくのかと思います。さきほど場というお話がありましたが、きっかけ作りは非常に大事だなと思います。

P T Aの今後の役割がまた問われていくことになると思います。例えば、校長先生が頑張つて地域とのいろいろな団体と交流しようと考えるところもあれば、そうでないところもあります。P T Aがその間でリーダーシップをどれだけ発揮できるか問われることもあると思います。そういう中でいろいろな団体と関わりを持てることはP T A の立場としてはどうですか。

(星 氏)

非常にありがたいと思います。防犯に関してですと、子供達が学校を離れて地域にいる時間

は親の責任下でもあります。学校の意見も聞いて、地域の意見も聞きつつ、自分の意見も全部を折り混ぜて考えられるのはPTAだと思います。PTAにも協議会がありますので、他の地域と意見交換会を行い地域の特性を活かして統一していけるのもまたPTAの立場ならではのと思っています。

また今力を入れているのは防災です。災害はいつ起こるのかわかりません。その時にまず避難所になるのが学校です。その時に地域にいるのが私達PTAで、いの一番に動かなければならない立場にあると思います。ただ、都内に働きに出ている親も非常に多くいるのでその時にどうするか考えなくてはなりません。

(平川氏)

私が日頃感じていることはリーダーがいなければどうしようもないということです。今日来ていらっしゃる皆さんのところは大丈夫でしょう。今までやってきたことを積み上げていけば立派な組織になるとは思います。やり方によってはリーダーの育成や組織の構築の手助けを誰が行っていくのかを明確にして成功例から学ぶ、失敗例から学ぶということが大事になるとは思います。モデル地区はうまく進んでいくと思います。ではモデル地区が成功した後に次ほどの地区で進めていくかとなったときに成功しそうな地区ではなく、問題を抱えた地区でリーダーの養成や組織づくりを誰かが進めていかないと継続的にそういう地区が増えていかないと。行政も取り組んでいかないと遅れてしまう地区も出てくると思います。

我々の団体は18地区ありまして、その地区割りも松戸市の場合には問題があります。学区を中心とした区割りではないので、学校との連携をとる上で多少の問題が生じてしまいます。我々も定例会がありまして各地区の情報が入ってきます。我々としては行政や地域福祉関係に協力していきたいと思っています。我々としても出来る事と出来ない事がありますので、各団体に要請やお願いが出てくると思います。その時受ける立場の団体もリーダーや組織がしっかりしていないと話が進まないで、底辺においてはしっかりと組織づくりとリーダーの養成を指導してほしいと思っています。

(文入氏)

各15地区の社会福祉協議会の中で民生・児童委員達は具体的な動きをしてくれています。民生・児童委員の方を中心に素晴らしい活動をされています。私は町会・自治会というのは基本だと思っています。昔、社会福祉協議会の幹部でもなかった時に市の会議で私の理想は社会福祉協議会と言ったことがあります。その頃も全地区に市政協力委員がいて、その市政協力委員がそれぞれ町会長や自治会長をやっていました。住民の方が集まるには近い場所のほうが良いのですが、平川氏が今、話していたように町会長・自治会長によって意識に差があります。うちの町会も盆踊りや餅つきなど積極的に行っていますが、皆楽しんで参加しています。なにかしなくてはいけないという気持ちではなく、楽しんでやってほしいと思うので、私は行政が口を出して作り始めるのはあまり望ましいことではないなと思っています。この懇談会でも皆自由な立場で発言していることを発信していけば良いと思っています。それには組織のトップから発信してもらわないといけないと思います。例えばこの懇談会の様子を行政から伝

えるにはまだ結論も決まっていないので早いと思いますが、私が社会福祉協議会に持ち帰って伝える時には今はこういう流れでこのような方向に向かっていくだろうとニュアンスで伝えることが出来ます。それと同時に「こういう問題がありました」ということや、「良い意見が出たよ」と伝えるのも良いと思います。町会の話し合いでも役員でもない若い人がこうしたほうが良いというような発言が自由にできる環境づくりを行っていくことが大切だと思います。

(座 長)

この仕組みづくりの意義や方向性がある程度まとまってきました。同時に課題も見えてきました。一つは地域ごとに温度差があって特に先ほど平川氏が話していた、積極的に進めてくれる人がなかなか出てこない地域もあり、こうした仕組みをやらなくてはいけないとなると厳しいのでどのようにカバーしていくのかという問題です。これは自治体によって様々なやり方があると思いますが、一律的に導入していくというやり方もあれば、手上げ方式でやりたいところがやるというように考えているところもあります。地域の問題として考えればそれで良いのですが、地域と行政の関係性を考えると重要な問題になると思います。

また大塚氏のように強いリーダーシップを発揮してくれる人がいる地域とそうでない地域、リーダーシップを発揮するにしても「ただおれについて来い」という人も中にはいるかもしれません。しかし声を拾って、繋いでいくには知識と経験と技術が必要とされるのでなかなか難しいところではあります。そういった人材をどのように育てていくのか、行政が講座を開けば良いということでもありません。最近では市民塾・地域塾といって相互に学びあう場が設けられています。そこで成功された人を呼んで学ぶというのは良い機会になるのではないかと思います。

文入氏が話していた、情報の発信の仕方ということですが、地域の人が無関心でなかなか参加してくれないという話はどこに行っても聞きます。確かにそのような現実ではありますが、同時に見えてくる現実情報は情報があまりにも無さ過ぎることです。例えば子育て環境に関して言えば、子育てをしている人達が今どういう状況にあるのか、なにに困っているのか、なにが不満なのか、なにを希望しているのか、そのような情報が地域で共有されていない現実があります。行政が地域に発信することもあります、住民から住民へ発信されることもあります。私としましてはそうした情報が行政の関係、住民相互の関係において開かれてほしいと思っています。

さらに情報というと結論だけが発信されることがあると思いますが、これは情報としては不足していて今後問われていくのは問題提起型の情報発信だと思います。行政が発信するものも、議会が発信するものも含めています。例えば子育てについてどうするか、高齢者の見守り体制についてどうするか問題提起型の情報発信を行っていかねば多くの住民に理解してもらうことは難しいのかなと思います。そこで住民の方からこうすれば良いのではないかという声が上がってくるようにするためにも情報発信の方法が問われてくると思います。その方法も地域によって様々な方法があると思います。

区割りの問題ですが、これは非常に難しい問題です。区割りをどのように決めてどのように動かしていくのか、地域によって温度差もあるのでこれもモデル地区を見ながら模索していく

しかないのではと個人的には思います。今後区割りのあり方を検討していくということも課題の一つかと思います。

もう一つ、行政との関わり方ですが、まだまだ未知数だと思います。まずは、サロンのように様々な人達が相互に意見交換できる場で問題を共有したり、提案をしたり、お互いに意見を補完することができると思います。行政もそのような場に一定の支援をしていくことで少しずつそのような環境を整えるのが良いのではないのでしょうか。その場を通じて横の繋がりが生まれて提案が生まれたならば行政としても一定の支援をするのが良いと思います。あるいは、行政がいろいろな提案をして地域がそれを受けるといった形も良いかと思います。しかし、これは行政が一方的に決められる話ではないので、地域の関係者との会談を行い、パートナーシップを築いていくことが必要になります。行政の活動範囲が流動化していてその流れで協働という言葉が出てきています。今後どのようにしていくかが課題になるのではないかと思います。

(原田氏)

本庁地区は社会福祉に関してはほとんどやっています。第一自治会としては受身になってしまいます。しかし、松戸駅の改良計画が進むと駅広場を預かっている私達としては商店街と一緒に開発問題に取り組んでいます。松戸駅が地域だけでなく、市民が使いやすくなったと言われるように改良計画を立てています。このような話し合いの場でも再開発事業の話は出てきても良いと思います。松戸駅を降りたら、松戸市が良くなったと思われるような開発計画を進めていきたいと思っています。

(座長)

開発もいろいろな側面がありその中で様々な問題も含んでいると思います。また地域住民がどのように開発に関わっていくのかという問題もあります。

(原田氏)

今の商店街としてはイベントをやっていれば良いと思っているのですが、イベントだけが商店街ではないと私は思っています。さらに街づくりをしっかりと行っていかなければならないと思います。

(座長)

商店街の問題も個別に分散してしまったり、一部の人が諦めてしまっていたり、依存してしまったり、頑張っている人もいるという客観的に見ると歯がゆい状況になってしまっています。そこで、話し合いの場をどのように作っていくか、どのような人達と交わっていくかがポイントになると思います。

(原田氏)

先ほど大塚氏が12地区を回ったというお話をされていましたが、開発に関して言ったのは私のところとあと一つくらいでした。社会福祉は社会福祉で重要な問題なのですが、開発は福

祉に含まれないので是非アピールしたいと思いました。

(文入氏)

開発こそ福祉に直結していると思います。住民が気持ちよく癒されるような街づくりをすることが福祉の原点だと思いますので、よろしくをお願いします。

(原田氏)

松戸駅は松戸市の入り口ですので、市民以外の方にも松戸市は良いなと言ってもらえるように松戸駅の開発計画を盛り上げていきたいと思っています。

(大塚氏)

駅前の開発や環境整備については他の地区でも話題に上がっていますので、よろしくをお願いします。

(平川氏)

私達も行政関係と付き合いがあるのですが、住民に対する地域性という平等性なのではないかと思います。同時に行うことも一つだと思います。そういった意見への調整方法は他市の対応はどういうものなのですか。

(座長)

平等というのは仕組みについていえば、導入についての平等ということですか。

(平川氏)

そうですね。やはりサービスが偏ってはいけないと思います。予算の関係もありますが予算はどこにでもつくので出さないほうが勝手ということもありますが、住民サービスの低下にも繋がるのでどうしていますか。

(座長)

自治体によって様々です。いろいろな補助金が出ていたものをまとめて使い方も含めて自治会に一任する場合は一律的に行う場合が非常に多いです。その場合は平等性と行政サービスが公平な形で行き渡る環境を崩さないことを条件にやっている自治体もあります。お金関係で組み替えると言うことではなく、地域の活動にプラスアルファでやっていくというところは手挙げ方式でやっています。立ち上げ資金として50万、100万を基本に独自の計画を立て実行するとなるとそこにプラスいくらという形で支援しているところが多い印象です。平等・公正の考え方については要件を満たせば認める、やりたい事があるのならば同じ条件で、というように平等性を認めるという場合や導入に関して平等を担保するというケースもあります。

(平川氏)

それから私が言いたいのは底辺の人を誰かが指導して構築に対して力を貸してあげなくてはいけないということです。今、進んでいるところは今まで努力してきた訳ですが、やっていなかったところにモデル事業が良かったので上からおろしたところで、リーダーやバックアップする体制が整っていないと上手く機能しないと思います。その後は住民の方々と地域での実践になると思います。

(文入氏)

私も賛成です。町会・自治会もいろいろあり、会長の報告会の中で素晴らしい報告があがってくることもあります。一方でうちの町会は何もしていないからと一言で済ましてしまう会長もいます。このような町会はなにかの仕組みで対応しないと町会の住民が困ってしまうと思います。情報の平等性や課題解決の平等性といったことに置いていかれてしまうと思います。

(座長)

モデル事業というのはそういうことも含めて見極めていくが必要になってきます。このような仕組みを導入する時には一定の支援が必要になってくると思います。市民主導の形は変わらないにしても行政とどのように関わっていくのか、市民主導の形で進めていくにしても側面支援とどのように関わっていくのか工夫が必要です。

以前に香取市のお話をしたと思いますが、地域と行政がしっかりやりとりをする橋渡しという面で作ったのが、地域担当職員制度です。結果的に香取市での場合は150人近くの職員の方が1地区辺り5、6人で小学校区ごとに地域の担当者として活動しています。その学区での行事には可能な限り職員が参加するようにしています。立ち上げの段階では行政の支援を行い、少しずつ市民主導のシステムに移行する方法で行なっています。22、23ある学区の中に一年近くで16地区が立ち上げに成功しています。その他にも合併前の4地区に地域支援センターを作って部長級を配置するなど手厚い複数の支援の網の目を作り、併せて活用しています。

(荒氏)

今まで皆さんのお話を聞いていますと地区割りや行政との関係、情報といったことが課題ということでしたが、できることから柔軟に始めていくことが重要だと感じました。特に情報は松戸市の弱みだと思います。良いことをしても市民に届いていないと感じています。情報をしっかり伝えると同時に、市民の声をしっかり拾って情報として伝えていくことで新しいことが始まると思います。そこから新しい視点や考え方が生まれて、連鎖的に少しでも良くしようという考えが繋がり、緩やかにこの仕組みづくりを進められたら良いのではないかと思います。

(星氏)

情報という部分ですが、ポスターやホームページや広報誌というレベルでは接点のない人が多くいると思います。一番多いのが人から人への情報だとPTAの立場から思いました。会員が2万7,000人近くいて人を通して民生・児童委員や社会福祉協議会の情報が伝わること

があるので、個人的な情報発信をいろいろな場所で行えばそれなりの力になると思います。

(座 長)

ホームページや紙媒体だけでなく、人伝てや例えばPTAの構成メンバーであればスマートフォンを使った連携というのはいくらでも可能だと思います。そのようなことも含めて情報のあり方を地域で作るのもおもしろいと思います。

いずれにしてもどのようなところでどのような課題を抱えているのか、どのようなことを取り組んでみたいのか、どのような順序で、速度で進めていくのかは多様な現実があるので、強引に進めていくのは得策ではないと思います。まずはモデル地区から始めてやりたい地区が取り組んでいく形で裾野を広げていき、全市的に行っていくことになった時にやりたいところが手を挙げる方式にするのか、他のやり方で仕掛けるのか、今後の議論にかかってくると思います。少なくともいろいろな状況に応じていく必要がこの仕組みづくりにはあるということ再認識してもらいたいと思います。

(原田氏)

口伝てというのは良いと思います。老人会では市のホームページを見ることもあまりないので、ましてやスマートフォンを使っている人はいません。やはり口伝てという情報交換の手段も必要であると思います。

(大塚氏)

皆さんの話を聞いて思ったのは、理屈は素晴らしいことを言っていますが、行動が伴っていないということです。市にお願いするということが多いですが、地域から提案しなければダメだと思います。提案を上げる時も裏づけと方法を一緒に提出しないと市は動きません。実際に困っていることをどのように行政や議員に理解してもらおうかが大事です。そのために地域で実際に動かなければなりません。

(原田氏)

先ほどの開発の話がまさにそれだと思います。しかし、活動的な人や戦力になる人達は大体インターネットで済ませてしまい、なかなか参加してくれません。

(座 長)

情報の媒体はいろいろとありますが、口伝てとなると地域に網の目のように住民のネットワークが存在していないと成り立ちません。そのためその環境を整えていくのも進め方の一つになると思います。

あと、実践をどうしていくのか。これは実践の裏づけ、実践の積み重ねも大事ですが、これは実践そのものが共有されるということです。結果や理念・理想だけが情報として発信されがちですが、プロセスや動きが情報化されていない部分があり、それが共有されるのを妨げています。またそれが、次の活動の担い手が現れるのを妨げてしまっていると思います。そのとこ

ろを引き出すことがこの仕組みとしても必要ということをご今日の最後に確認したいと思ひます。
それでは今後のスケジュールを事務局のほうからお願いしします。

(向後専門監)

第4回目のスケジュールですが、いまのところ3月の下旬20日以降を予定してあります。
なるべく皆様に参加していただける日程を考えたいと思ひています。関谷先生の予定でご都合の良ひ日を挙げていただき、その中から皆さん参加できる日を決めたいと思ひます。

関谷先生が20日と27日で、文入さんが20日のほうがご都合がよろしいようなので20日の午前中の9時半に仮決定でよろしいでしょうか。

それでは本日は以上となります。お疲れ様でした。